

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：50104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00677

研究課題名(和文) 英語though節の話し言葉における談話機能分析

研究課題名(英文) An analysis of the discourse functions of though clauses in spoken English

研究代表者

水野 優子 (Mizuno, Yuko)

旭川工業高等専門学校・人文理数総合科・准教授

研究者番号：90435397

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、電子コーパスThe Corpus of Contemporary American Englishの話し言葉セクションから収集したデータを基に、英語の話し言葉において、伝統的に従位節とみなされてきたthough節には独立節としての用法も存在し、訂正譲歩、不賛成、新情報の追加という談話機能があることを明らかにした。また、独立節を導くthoughは談話標識として分析できること、および文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となることを示した。さらに、独立節を導くthoughは、althoughと比べると頻度が少なく、用法の種類も限られることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、電子コーパスを用いて話し言葉からデータを収集することで、これまでの先行研究で見逃されてきたthough節の独立節としての用法を明らかにすることができた。また、thoughが従位接続詞としての機能だけでなく談話標識としての機能を持つこと、および独立節としての用法は文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となることを示すことで、文法化、複文、および脱従属節化の研究分野に貢献することができた。

研究成果の概要(英文)：Based on the data collected from the spoken section of the Corpus of Contemporary America English, the present study revealed the following seven points. First, though clauses, which have traditionally been classified as subordinate clauses, can be used independently without their main clause. Second, independent though clauses can fulfill three functions, i.e., rectifying concessive, disagreement, and introducing additional information. Third, though which introduces an independent clause can be analyzed as a discourse marker. Fourth, the developmental process of independent though does not conform to the unidirectional cline of clause-combining constructions. Fifth, independent though clauses are far less frequent than independent although clauses. Finally, independent though clauses are more restricted than independent although clauses in the kinds of usages.

研究分野：英語学

キーワード：接続詞 談話標識 複文 譲歩 コーパス 文法化 脱従属節化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

複文、すなわち2つ以上の節から構成される文は、伝統的に、等位接続と従位接続に2分され、さらに従位接続は、補文、関係節、副詞節に分類されてきた。この内、副詞節はさらに、意味・機能によって譲歩節、理由節、条件節、時を表す副詞節等に分類することができる(cf. Quirk et al. 1985)。しかし研究開始当初から20年ほどさかのぼった頃から、これまで副詞節、つまり従位節とみなされてきた節が、独立節として用いられる例が報告されてきた。つまり、本来主節を伴うはずの副詞節が、主節なしで単独で用いられる用法である。従位節が主節のように振る舞う現象は、insubordination (非従属化)と呼ばれ、言語類型論の研究分野において近年注目を集めている現象である(Evans 2007)。独立節としての用法が指摘されている副詞節には、英語のbecause節やif節、ドイツ語の譲歩を表すobwohl節などがある。

一方、英語の譲歩を表すthough節については、本研究の開始当初はまだ指摘されていなかった。譲歩節に関しては、意味論的、語用論的、談話機能的な研究と、それまで様々な角度から分析されていたが、その多くが書き言葉から収集した例文や、人工的に作られた例文をデータとして用いていたためであると考えられる。このような背景を受けて、「though節にも独立節の用法はあるか、あるとすればどのような機能か？」を学術的な「問い」として設定した。

2. 研究の目的

本研究は、電子コーパスから話し言葉に現れる英語のthough節を収集し、以下の4点を明らかにすることを目的として行った。

- (1) though節には従位節だけではなく、従来指摘されてこなかった独立節の用法があること
- (2) though節の話し言葉における談話機能、および話し言葉と書き言葉における機能の違い
- (3) 独立節に現れるthoughは談話標識として分析できるか否か
- (4) though節の独立用法は、文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となるか否か

3. 研究の方法

独立though節の談話機能进行分析の際、従来、従位接続詞としてのthoughはalthoughの同義語として扱われてきたことから、although節との比較という観点から分析を行った。

データは、電子コーパスThe Corpus of Contemporary American English (COCA)の1990年から2019年にかけて収録された話し言葉セクションから収集した。この話し言葉セクションに含まれるthoughの用例は合計45,747件、althoughの用例は合計11,836件であった。そこから、まず話順の最初に現れる全てのthough節(518件)とalthough節(1,183件)を手作業で収集した。さらにそこから、主節に対して前置された従位節としてのthough節、although節を取り除いた。その結果得られた、合計で103件の独立though節と481件の独立although節の談話機能进行分析した。

4. 研究成果

- (1) 独立though節は、although節と比べて頻度が大幅に低いことが分かった。表1が示す通り、独立though節の頻度は独立although節の頻度の4分の1以下である。

表1 独立though節とalthough節の頻度

| | | |
|----------|-----|--------|
| Though | 103 | 17.6% |
| Although | 418 | 82.4% |
| 合計 | 584 | 100.0% |

- (2) 収集した独立though節とalthough節は、対話の中で用いられる場合とナレーターの発話の中で用いられる場合に二分され、さらに対話の場合は、同一話者の先行する発話を受ける場合と聞き手の先行する発話を受ける場合に分類できることが分かった。それぞれの頻度は表2が示す通りである。

表2 独立though節とalthough節の内訳

| | | Though | Although |
|------------------|-----------------|--------------|--------------|
| 対話の中で用いられる | 同一話者の先行する発話を受ける | 6 (5.83%) | 104 (21.62%) |
| | 聞き手の先行する発話を受ける | 48 (46.60%) | 347 (72.14%) |
| ナレーターの発話の中で用いられる | | 49 (47.57%) | 29 (6.03%) |
| 不明 | | 0 (0.00%) | 1 (0.21%) |
| 合計 | | 103(100.00%) | 481(100.00%) |

- (3) 独立though節と独立although節には、以下の談話機能があることが分かった。
対話の中で用いられ、同一話者の先行する発話を受ける独立though節には、訂正譲歩の機

能があることが分かった。訂正譲歩とは、以下の例が示すように、though 節が同一話者による発話の内容（真実性や重要性）を弱める働きをする場合である。

JOANNE LIPMAN: So what we see with the newest numbers is that personal income is actually up.3 percent.

CHRIS-WRAGGE: Yeah.

JOANNE LIPMAN: **Though** when you factor in inflation it's only up.1 percent.

対話の中で用いられ、聞き手の先行する発話を受ける独立 though 節には、訂正譲歩と不賛成の2つの機能があることが分かった。以下の例は訂正譲歩の例であり、though 節は、先行する発話から導かれる推論を打ち消すことによってその発話の内容を弱めている。

ABBY-WAMBACH: (...) And, you know, I had to ask myself that very hard question is - am I still bringing value to this team, so much so that they - that I want to still participate and be on it?

TERRY-GROSS: **Though** you stayed in the game for four more years.

以下の例では、though 節が先行する発話に対する不賛成を表している。

GLEN-HOWARD: I would disagree. (...) There's no revolving door between the Middle East and Chechnya, certainly not now.

MARGARET-WARNER: **Though** quite a few Chechens have certainly been arrested or killed in both Afghanistan and Pakistan?

対話の中で用いられ、同一話者の先行する発話を受ける独立 although 節には、標準譲歩、訂正譲歩、自己訂正の3つの機能を持つことが分かった。次の例は自己訂正の例である。although 節は、先行する同一話者の発話内容を訂正している。

MORALES: We're the only species that really French kisses, too. (...)

GEIST: I don't think so. What about-

MORALES: I don't think you see monkeys French kissing and dogs-

HALL: Well, they don't speak French.

MORALES: **Although** my dog sometimes tries to French kiss me, right.

対話の中で用いられ、聞き手の先行する発話を受ける独立 although 節には、標準譲歩、訂正譲歩、不賛成の3つの機能があることが分かった。

上記の ~ の結果をまとめると、表3のようになる。

表3 対話の中で用いられる独立 though 節と although 節の用法

| | | Though | Although |
|-----------------|------|--------|----------|
| 同一話者の先行する発話を受ける | 標準譲歩 | | ✓ |
| | 訂正譲歩 | ✓ | ✓ |
| | 自己訂正 | | ✓ |
| 聞き手の先行する発話を受ける | 標準譲歩 | | ✓ |
| | 訂正譲歩 | ✓ | ✓ |
| | 不賛成 | ✓ | ✓ |

表3が示す通り、独立 though 節は独立 although 節と比べて、用法の種類が限られていることが分かった。独立 although 節は、標準譲歩、訂正譲歩、自己訂正、不賛成の機能を持つが、独立 though 節は訂正譲歩と不賛成の機能しか持たない。

ナレーターの発話の中で用いられる用法については、独立 though 節に関してのみ分析を行い、訂正譲歩と新情報の追加、という2つの機能があることが分かった。以下は新情報の追加の例である。訂正譲歩と異なり、though 節は先行発話を弱めているわけではなく、先行発話に関連する新しい情報を追加しているだけと言える。

JOHN-EARL: It's so - it's so fun, people watching and the questions they ask. I just watch their reactions.

SMITH: **Though** what's even funnier is how John Earl, this musician and artist who dropped out of college after two weeks, is now on Boston's most fashionable strip selling these t-shirts (...)

(4) 本研究ではさらに、独立節を導く *though* と *although* は、談話標識として分析できることを示した。具体的には、Günthner (2000)によって挙げられた9つの談話標識の一般的特徴の内、次の6つを取り上げ、独立節を導く *though* と *although* に当てはまるか検証した結果、どちらもこれらの特徴を持つことを示した。第一に、独立 *though* 節、*although* 節はどちらも、書き言葉より話し言葉で多く用いられる。第二に、*though*、*although* はもともと従位接続詞である。第三に、*though*、*although* は短い項目 (short item) である。第四に、独立節を導く *though*、*although* は発話頭に現れる。第五に、独立節を導く *though*、*although* は選択的である。すなわち、*though*、*although* を用いなかったとしても、その文は非文法的にならず、命題内容も変わらない。第六に、*though*、*although* は多機能的で、いくつかの談話レベルで機能する。例えば、不賛成の場合、聞き手による発話内容と反対の内容を述べることを合図する逆接機能を持つと同時に、話者の反論を表す感情表出機能を担っている。以上の観察は、独立節を導く *though*、*although* はどちらも、もはや従位接続詞ではなく、談話標識として分析できることを示している。

(5) 独立節を導く *though*、*although* はどちらも、文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となるが、*though* 節は *although* 節と比べると文法化が進んでいないことを示した。

Hopper and Traugott (1993)は、文法化を「ある語や構文が、次第に文法的な機能を果たすようになり、さらにその機能を拡張していく変化」と定義している。大橋 (2013)によると、談話標識の発達もまた広い意味での文法化の例と考えることができる。文法化のプロセスは変化の方向が一定であることが指摘されており、単方向性の仮説と呼ばれている (Hopper and Traugott 1993)。本研究では、この仮説の内、節接続の傾向 (a cline of clause combining) について検証した。この傾向は、文法化に伴う変化の方向は、非従属節から従属節へ変化することを予測する。この仮説を検証するため、収集したデータについて、1990年から2019年までの5年ごとの独立 *though*、*although* 節の頻度を調べた。その結果、表4が示す通り、独立 *though*、*although* 節はどちらも、徐々にではあるが増加傾向にあることが分かった。

表4 独立 *though*、*although* 節の頻度の推移

| | 1990-1994 | 1995-1999 | 2000-2004 | 2005-2009 | 2010-2014 | 2015-2019 | 合計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| Though | 10 | 8 | 17 | 26 | 19 | 23 | 103 |
| Although | 52 | 69 | 64 | 77 | 99 | 120 | 481 |

表4はさらに、どの年代においても、独立 *though* 節は独立 *although* 節と比べて頻度が少なく、文法化が進んでいないことを示唆している。

(6) COCAの2019年の話し言葉セクションから、定形節を導く全ての *though* を手作業で収集し、従位節を導く *though* と独立節を導く *though* の頻度を調査した。従位節についてはさらに、主節に対して前置される場合、後置される場合、主節の中に現れる場合の頻度を調べた。

表5 話し言葉における定形節を導く *though* 節の頻度

| | | |
|-----|----|--------------|
| 独立節 | | 21 (15.9%) |
| 従位節 | 前置 | 37 (28.0%) |
| | 中間 | 1 (0.8%) |
| | 後置 | 73 (55.3%) |
| 合計 | | 132 (100.0%) |

表5から、独立 *though* 節は、従位節としての *though* 節と比べて頻度が低いことが分かった。さらに、話し言葉において従位節として用いられた場合、主節に対して後置される場合の方が前置される場合よりも頻度が高いことが分かった。この、後置節の方が前置節よりも頻度が高い傾向は、Mizuno (2010)で報告された書き言葉における *though* 節の傾向に一致している。

< 引用文献 >

Evans, Nicholas (2007) "Insubordination and its Uses," *Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations*, ed. by Irina Nikolaeva, 366-431, Oxford University Press, Oxford.

Günthner, Susanne (2000) "Form Concessive Connector to Discourse Marker: The Use of *Obwohl* in Everyday German," *Cause-Condition-Concession-Contrast: Cognitive and Discourse Perspectives*, ed. by Elizabeth Couper-Kuhlen and Bernd Kortmann, 439-468, Mouton de Gruyter, Berlin/New York.

Hopper, Paul J. and Elizabeth C. Traugott (1993) *Grammaticalization*, Cambridge University Press, Cambridge.

Mizuno, Yuko (2010) "A Quantitative Analysis of *Although* and *Though* Clauses: Their Commonalities and Differences," 日本英文学会 『英文学研究 支部統合号』 第3巻, 46-66.

大橋 浩. 2013. 「文法化」, 森 雄一、高橋 英光 (編) 『認知言語学 基礎から最前線へ』,

155-177、東京：くろしお出版。

Quirk, Randolph et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman, London.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 水野優子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 英語の話し言葉における though 節の独立用法：コーパスを用いた分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日本英文学会北海道支部 第64回大会（2019年度）Proceedings | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Yuko Mizuno | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 A Corpus-Based Analysis of Independent Although and Though Clauses: Their Commonalities and Differences | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Papers from the Thirty-Ninth Conference November 13-14, 2021 and from the Fourteenth International Spring Forum May 8-9, 2021 of The English Linguistic Society of Japan JELS 39 | 6. 最初と最後の頁 143-149 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yuko Mizuno |
| 2. 発表標題 A Corpus-Based Analysis of Independent Although and Though Clauses: Their Commonalities and Differences |
| 3. 学会等名 ELSJ 14th International Spring Forum 2021（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 水野優子 |
| 2. 発表標題 英語の話し言葉における though節の独立用法 コーパスを用いた分析 |
| 3. 学会等名 日本英文学会 北海道支部 第64回大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|